

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

○年 ○月 ○日

京都市長

記載例
(法人)
株式会社○○ 代表取締役○○○○
株式会社○○ ○○支店 支店長○○
(個人事業主)
○○工務店(屋号) ○○○○

社印等の押印不要

提出者
住所 京都市○○区○○通○○○番地
氏名 株式会社 ○○○○
代表取締役 ○○ ○○○
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 ○○○-○○○-○○○○

代表番号
(個人の携帯番号等は記載しないように注意)

年度に注意

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、△年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	株式会社 ○○○○ ○○支店	処理計画の作成単位とした事業場 (建設業の場合は支店等)
事業場の所在地	京都市○○区○○町○○○番地	建設業の場合は支店等の住所
事業の種類	大分類：建設業 中分類：総合工事業	日本標準産業分類の中分類まで記載
産業廃棄物処理計画における計画期間	△年4月1日～△年3月31日	

産業廃棄物処理計画における目標値

前年度提出の処理計画書の目標値を記載
(前年度の実績ではない)

項目	目標値	項目	目標値
排出量	○○t	全処理委託量	○○t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	優良認定処理業者への処理委託量	○○t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	再生利用業者への処理委託量	○○t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者への処理委託量	t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

※事務処理欄

前年度提出の処理計画書の「集計用シート」に記載された目標値を転記すること

産業廃棄物処理計画実施状況報告書の〔集計用シート〕

- 産業廃棄物の種類ごと（排出したものに、①～⑯の各数値を記載してください。（自動で第2面に転記される。）
- 下表にない産業廃棄物を排出した場合は、「産業廃棄物の種類」欄に、品目を記載してください。
- 行が足りない場合は、行を追加してください。（また、シートを追加して、第2面を作成してください。）

委託先区分の合計値が⑩の処理委託量

① - ② - ③ - ④ + ⑤ + ⑥ - ⑧ - ⑨ = ⑩ = ⑫ + ⑬ + ⑭ + ⑮ + ⑯

⑪
(⑩ ≥ ⑪)

産業廃棄物の種類	計 画 の 実 施 状 況										委託先による区分					優良認定処理業者への処理委託量		
	① 排出量	② 自ら直接再生利用した量	③ 自己直接埋立処分又は海洋投	④ 自ら中間処理した量	⑤ ④のうち熱回収を行った量	⑥ 自ら中間処理した後の残さ量	⑦ ⑥のうち熱回収を行った量	⑧ 自ら中間処理により減量した量	⑨ 自ら中間処理した後再生利用した量	⑩ 自ら中間処理した後埋立処分又は海洋投入処分した量	⑪ 自ら処理した後の処理委託量	⑫ 再生利用者への処理委託量	⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収業者への処理委託量	⑮ その他の中間処理委託量	⑯ 埋立処分委託量	⑰ 優良認定処理業者への処理委託量	⑱ 自ら再生利用を行った量
法で定められている産業廃棄物の種類（シュレッダーダストなど、一歩不可分のものについては、空欄付に記載してください。）	当該事業場において排出した産業廃棄物の種類ごとの量	①の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量	①の量のうち、中間処理をせず自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	①の量のうち、自ら中間処理した産業廃棄物の当該中間処理前の量	⑤の量のうち熱回収を行った量	⑥の量のうち自ら中間処理を行った後の量	⑦の量から⑧の量を差し引いた量	⑧の量のうち、自ら利用、又は他人に売却した量	⑨の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量	⑩の量のうち、自ら中間処理及び最終処分を委託した量	⑫の量のうち、処理業者へ再生利用委託量（⑫、⑬を除く）	⑬の量のうち、認定熱回収施設設置者である処理業者への焼却処理委託量	⑭の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量	⑮の量のうち、委託して破砕等の中間処理した量（⑮～⑲を除く）	⑯の量のうち、直接委託して埋立て最終処分した量	⑰の量のうち、優良認定処理業者への委託処理量	⑱の量と⑲の量を合計したもの（自動計算）	⑲の量と⑳の量を合計したもの（自動計算）
燃え殻																0	0	0
汚泥																0	0	0
廃油																0	0	0
廃酸																0	0	0
廃アルカリ																0	0	0
廃プラスチック類	1,500	200	0	100	50	20	80	10	0	1,210	800	100	100	200	10	1,000	210	0
ゴムくず																0	0	0
金属くず																0	0	0
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず																0	0	0
鉱さい																0	0	0
がれき類																0	0	0
ばいじん																0	0	0
紙くず																0	0	0
木くず																0	0	0
繊維くず																0	0	0
動植物性残渣																0	0	0
動物系固形不要物																0	0	0
石綿含有産業廃棄物																0	0	0
廃石膏ボード																0	0	0
混合廃棄物(安定型)																0	0	0
混合廃棄物(管理型)																0	0	0
											800	100	100	200	10	1,000	210	0

よくある間違いの例

- ⑩にしか数値が入っていない。又は⑩に数値が入っていない。
- 委託先区分の合計値が、⑩の数値を超えている。
- それぞれの委託先区分（例：⑫と⑮）に、同じ数値が入っている。

※委託先の処理方法を確認し、委託量を確実に分けること。
 ※委託先の業が重複する場合は（例：再生利用者でも熱回収認定業者でもある場合）代表的な区分に集約させること。

①)トシ未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

⑪の優良認定事業者への処理委託量は、⑩の数値から該当する委託量を抽出すること。※⑩に足し合せないこと。

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類： 廃プラスチック類)

集計用シートに記載した数値が自動反映
(数値の反映確認をお願いします。)



備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。